



旅の記憶として色々なことが自分の心にも印象や余韻として未だに鮮明に残っている。良いことも良くないことも、旅のあとには思い出として同じ箱にきちんと収まり、良かったことも良くなかったことも、あったかい気持ちにさせてくれる穏やかな、旅の記憶のひとつのかけら。今回はそんな旅のかけらの中から、ハノイでの思い出のかけらをご紹介します。

わたしの中のベトナムは、昔映画で観たトラン・アン・ユン監督の「青いパイアの香り」や「夏至」のイメージで息づいていて、雑貨が好きなお店もあり、ベトナムは憧れの国だった。ハノイが舞台だった「夏至」のままだ、ハノイ、特に旧市街は建物とそこに漂う空気がどこか色っぽさもあつたように思う。残念ながら、トラン・アン・ユン監督独特の鮮明な青のアンニュイさは感じられなかったけれど、それでも映画の場面を思い浮かべたり、食事の場面や生活の音が自分が今いるハノイの街の路地や建物の中から聞こえてきそうな気がした。

ハノイにはいくつか湖があるが、旧市街を抜けてすぐ目の前に見えるホアンキエム湖はわたしにとっては道に迷った時の

良い目印になった。歩いているとひっきりなしに、シクロやバイクタクシーが声をかけてくるけれど、ガイドブック片手に歩く方が時間はかかっても自分のペースで雑踏も喧騒も耳に入ってくるので楽しい。歩き疲れてホアンキエム湖のベンチで涼んでいたら、声をかけてきた大学生だというベトナム人男性。英語の勉強をしているので、外国人を見かけると声をかけていると言う。果たして私のつたない英語で役にたつ？でも、彼には外国人と話をすることがワクワクする普通のちょっとした楽しみのような気がする。ベトナム以外の国へ行ってみよう。彼のその言葉からも外国人との会話は自分の知らない外の世界のぞき、知れるものだったのだからと思う。

ハノイ最終日の滞在先のホテルは旧市街のど真ん中。なんとロマンチックな演出をしているホテルで、1階奥は旧市街でも美味しいと評判の多国籍料理レストラン、階段をのぼり2階、3階がそれぞれ2～3部屋くらいしかない贅沢な間取りで、廊下には洋風なテーブルに椅子、薔薇の花びらが床一面に散りばめられていてとってもスウィート！大きなガラス張りの扉、バスルーム、バルコニーまでヨーロッパを意識したしつらえて、バックパック旅最後のわたしなりの贅沢だった。街散策の途中で、日本語のガイドブックを手にしている女性に声をかけた。「あの、もしまだお昼を食べてらっしゃらなかったら一緒にませんか？」お互い一人旅で、そろそろ誰かと日本語でおしゃべりをしたり、ご飯を食べたくなくてきいてきたことに共感してすぐ息投合！一人では入りづらい地元の

の屋台らしいお店でお昼を食べたり、シクロに乗ったり、街を散策しながらもおしゃべりは尽きることがなかった。大学の夏休みを利用しての2ヶ月くらい一人旅の彼女。東南アジアからインドまでを気ままに旅するのだと話す。彼女がタイで友達になったという韓国の大学生の青年とばったり再会！すごい！旅の自由な風が運んできた不思議な再会。3人で日本語、英語、韓国語が飛び交いながらのおしゃべり、お茶をしたのも本当に楽しかった。彼らとは連絡先も交換せずだったけど、それがこの旅のそれぞれの旅の自然な形、「じゃまたね。」と別れた。

わたしがハノイで心を奪われたのは、建物や看板、そしてモノクロ写真のような街の中にある鮮やかな色だった。すごく古くて今にも壊れてしまいそうな印象もある建物がひしめきあいながらもベランダにつたが這うように覆っている植物や花、住所の番号が書かれたプレートも、街を走るバイクも人々もまぎれもなくそこはベトナムなのに、すごく絶妙なバランスで成り立っているように思えた。ここはヨーロッパのどこかの国の街角なのかもしれない。そんなベトナム・ハノイでした。



☆秋の遠足...宇治☆

(11月16日の秋の遠足については前号でも紹介しましたが、その後、感想が2本届きましたので、掲載します。)

11月16日(日曜日)市岡日本語教室のみんなで宇治へハイキングに行きました。いつもの笑顔にお久しぶりとお仲間勢揃い。参加は41名です。心配していた雨はほとんど降らず、帰りは晴れ。よかった！朝9時40分、京阪「京橋」駅の改札前、市岡の新しい青旗と黄色いジャンパーを目印に集合。今日一日の旅仲間の印として黄色い菱形シールを襟や帽子や鞆に貼ります。予定通り10時6分発の特急に乗る、中書島で宇治行きに乗り換え。宇治駅からいよいよハイキングです。

最初の目的地は宇治上神社(うじがみじんじや)と、その隣にある宇治神社(うじじんじや)。実はここ、世界遺産です。拝殿や本殿は現存する社殿としては日本最古、国宝！この古い建物が建てられたのは鎌倉時代(700～800年以上前)。苔が生えてる屋根は檜皮覆(ひわだぶき)、檜(ひのき)の皮を何枚も重ねてあります。建物は「寝殿造(しんでんづくり)」です。ちょうど七五三のお参りに来た晴れ着の小さな男の子や女の子が御祓(おはらい)を受けたり、記念写真を撮ったりしていました。みんなも学力向上をお祈りしました。七五三のお子さん方に習って境内に設けられた知恵の輪もくぐりました。ちょっと賢くなれたかな？

鳥居を出ると、緑の山を背景に黄色い葉をたくさんつけた大きな銀杏の木や赤い欄干。写真に撮りたくなる風景が続く宇治の川辺を歩いて、モミジのトンネル「琴坂(ことざか)」へ。赤くなった楓(かえで)は端の数本、緑のトンネルです。禅寺の門まで両側に石垣が続く参道は静かで、耳を澄ませば脇を流れる小さな水の

音が聞こえそうです。橋を渡り、宇治川の「橘島(たちばなじま)」に。全員並んで記念撮影を撮りました。河原に座り、橋の下を屋形舟が過ぎる風景を眺めながらお弁当を「いただきます！」川の中には1メートルもある大きな鯉や、もっと小さな魚もたくさん泳いで、黒っぽい鵜(う)、立つと1メートル近い灰色の鷺(さぎ)、それより一回り小さい真っ白な白鷺(しらさぎ)など鳥が川のあちこちに立っています。島や宇治橋にはお茶の木が植えられています。直径2～3センチほどの地味な白い花が咲いていました。

見上げるばかりに高い十三重石塔が立つ「塔の島(とうのしま)」へ。そこから対岸へ渡り、平等院の入り口に向かいます。平等院に近づくにつれてだんだん観光客が多くなってきました。周囲もにぎやかです。平等院の境内(けいだい)に入ってから自由には散策。池の周りを歩きながら水面に映る鳳凰堂(ほうおうどう)を見ました。平安時代末期(約1000年前)に造られた建物です。左右対称に幾棟も繋いだ寝殿造りの傑作。十円玉の絵と同じです。平等院の国宝などを展示している「鳳翔館(ほうしょうかん)」は入場券でそのまま見学できます。この中に展示してある鳳凰は一万円札に描かれているそうですが、お札は持ってなかったので見比べられませんでした。

最後に上林記念館(かんばやしきねんかん)へ。宇治と言えばお茶の名産地、四百年続くお茶の店「かんばやし」の古い門屋です。江戸時代(200～300年前)に宇治のお茶を将軍のために遠い江戸(えど、今の東京。)まで送る

時に使った茶壺などを見ました。ちょっと疲れたけど、とても楽しい一日でした。みなさんありがとうございました！

(3班 永野泉)

今回の旅は京都府の宇治市へ行って、美しい宇治川の風景、源氏物語ゆかりの地を散策しました。川沿いの参道でゆっくり歩き、涼しい風を吹きながら落ちた紅葉を踏み、「紅葉の色きはまりて風を絶つ」という宋淵の俳句を思い出した。やはり京都の秋は絶景だと思いました。

先生達と一緒に握りを食べていろいろな話題を話して、本当に楽しかったです。食事後、平等院鳳凰堂、宇治上神社、上林記念館へ行って、歴史的な日本を満喫し、文化の力と美しさを感じました。留学生として私は、みんなと巡り合ってたよかったです。

(台湾 莊 祐青 ソウユウセイ)

来年度 ボランティア研修会

- 3月13日(金) ボランティア説明会
弁天町市民学習センター
- 3月20日(金)、27日(金)
ボランティア研修会 港区民センター
講師 及川篤先生(ヒューマンアカデミー)
<時間 午後7時～9時>

★新学期は4月10日(金)から、会場はいつもの市岡高校同窓会館です。